



スーパー グローバル ハイスクール

佐高 *SGH*通信 2017

No. 31 (平成29年11月2日発行)

夏休み中のSGH活動報告③

インドネシアでのウイルス調査報告



ウイルス病にかかっているサンプル採集



ウダヤナ大学での発表（英語）

2017年8月15日（火）～23日（水）の9日間、**田上真衣**さん（高2年3組）が、宇都宮大学のiPU（グローバルサイエンスキャンパス）の一環で、農学部の「**インドネシア調査研究チーム**」の一員として、植物感染症のウイルス調査に参加しました。また、現地のガジャマダ大学およびウダヤナ大学で、研究に関するプレゼンテーションを行いました。

Q1 どんな調査をしたのですか？

→ウイルスのサンプル採集は、ウリ科、マメ科、ナス科の植物で行いました。メロンやトマト、唐辛子がほとんどです。中でも一番驚いたのは唐辛子畑です。本来なら緑の葉が、ウイルスのせいで黄色くなっていたり、モザイクになっていたりしていました。こんなに深刻だったとは知らず、本当にびっくりしました。現地の畑で写真を撮影した後、サンプルに番号をつけて袋に入れ、LAMP という検査機を用いてウイルス病の検出を行いました。ウイルスが検出されたサンプルは、冷凍して日本に持って帰りました。今後、サンプルからDNAを抽出し、調査する予定です。

Q2 インドネシアでの生活はどうでしたか？

→暑さを覚悟して行きましたが、やはり暑かったです。さらに畑での作業なので長袖でした。日差しが肌に突き刺さるほど痛かったです。しかし、インドネシアは南半球。つまり季節は冬だったので、常夏の国といえ涼しいほうだったのかもしれませんが。食べ物は辛い物が多いです。唐辛子を使った料理が多く、サンバルというとても辛いソースがありました。現地の方は唐辛子を油でいためたそのままの形の物を平然と食べていて目を疑いました。辛くても生水は飲めないなのでペットボトルの水をがぶがぶと飲んでいました。

Q3 あなたにとって、どのような成果がありましたか？

→現地では、すべて英語でコミュニケーションすることができ、とても自信になりました。また、宇都宮大学の先生方や学生さんとは、研究や大学のことなどたくさん話をすることができ、私にとって大きな実りのある調査でした。Terima kasih (=インドネシア語：ありがとうございました)